

決算特別委員会

- ◎ 開催日時 令和5年10月26日（木）9時58分～15時56分
- ◎ 開催場所 議員室
- ◎ 説明員 森本琵琶湖環境部長、岡田農政水産部長、中田会計管理者、福永教育長、島戸監査委員事務局長および関係職員

◎ 議事の概要

- 1 議第110号、議第112号、報第8号、報第11号および報第12号について（部局ごとの審査）

【教育委員会所管分】

委員からは、学校現場における1人1台タブレット端末の貸与体制について、既に希望者へ貸与可能な台数を十分に用意されているとのことであれば、次は児童、生徒が借りやすい環境となるよう取り組まれない、いじめや不登校の根本的な要因への県の対応として、生徒指導担当や管理職向けの研修を行っていただいているが、いじめには様々な形があり、個々のケースで対応方法も変わってくるので、子供たちが自分の意見を言え、他人の意見を尊重でき、安心安全に学んでいけるような環境づくりをする研修にも力を入れていただきたい、などの意見が出された。

【琵琶湖環境部所管分】

委員からは、未来へつなぐ木の良さ体験事業について、県産材の将来需要を喚起するためには、特に若年層に木の良さを体感してもらうことが有効であると考えるので、実際に木に触れられるよう工夫された周知啓発を展開されたい、生物多様性しが戦略の展開事業について、事業者の独自の取組を広げていくだけでなく、滋賀県全体として、生物多様性に対してどのような点が足りていないのか事業者等と連携しながら進めていただきたい、などの意見が出された。

【農政水産部所管分】

委員からは、びわ湖のめぐみ食文化継承促進事業について、将来の滋賀県食材の需要、消費を拡大するためには、実食販売などで出来たての一番美味しいタイミングで食べてもらうような取組を推進することが有効であると考えるので、特に子供たちが実際に食べて美味しいと感じてもらえるように、工夫して取り組んでいただきたい、しがの園芸特産の振興について、県内のイチゴの生産者が増える中で、みおしずくの県内需要が頭打ちになってきているのではないかという意見もあることから、流通に耐えられる品種として開発された魅力や強みを活かし、県外市場に流通させるよう取り組むとともに、生産量が増えても、品質を落とさないように努められたい、などの意見が出された。



委員会で配付された資料

- 1 部局別資料(教育委員会)
- 2 主要施策の成果に関する説明書(教育委員会)
- 3 随契・長期継続契約締結結果(教育委員会)
- 4 部局別資料(琵琶湖環境部)
- 5 部局別資料(琵琶湖流域下水道事業会計決算)
- 6 主要施策の成果に関する説明書(琵琶湖環境部)
- 7 随意・長期継続契約締結結果(琵琶湖環境部)
- 8 部局別資料(農政水産部)
- 9 主要施策の成果に関する説明書(農政水産部)
- 10 随意契約結果(農政水産部)